



OpenRoaming の概要

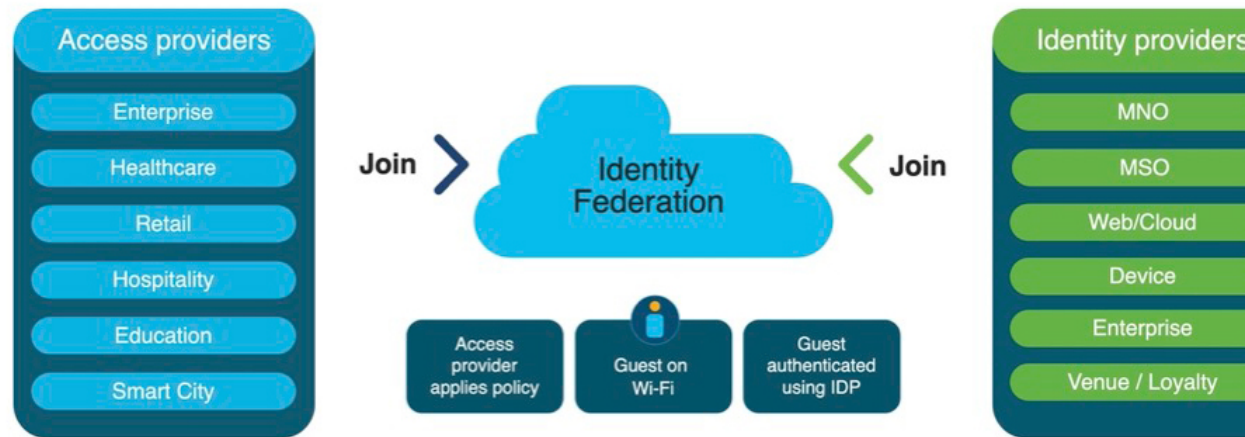


(注) この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナルリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザインターフェイスにハードコードされている言語、基準ドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。

OpenRoaming が導入される前は、より便利でより安全なインターネット接続を提供してくれるという理由から、多くのモバイルデバイスユーザーが個人の携帯電話ネットワークへの接続を優先的に選択していました。インターネットの使用は、セルラーエリアのカバー状況とモバイルデータプランに依存していたのです。

OpenRoaming は、Wi-Fi の面倒なゲスト オンボーディング プロセスと不正な SSID への接続リスクを排除して、安全でシームレスな自動ネットワーク接続を実現します。OpenRoaming により、複数の SSID から選択したり、設計が不十分なキャプティブポータルで安全ではない共有クレデンシャルを入力したりする必要がなくなるため、インターネットにアクセスしようとするモバイルデバイスユーザーにとっては特に便利です。OpenRoaming では、信頼できる ID プロバイダを使用してサインインすることでユーザーがゲストネットワークに接続できるようになり、ユーザーモビリティが強化されます。

図 1: OpenRoaming フェデレーション



OpenRoaming フェデレーションは、アクセスプロバイダと ID プロバイダで構成されます。アクセスプロバイダは、顧客が自動的に接続するワイヤレスネットワークを提供します。アクセスプロバイダには、小売業者、空港、ホテル、大企業、公共施設が含まれます。ID プロバイダは、ユーザーが有効な顧客であるかどうかを確認した後でネットワークへのアクセスを許可します。ID プロバイダには、サービスプロバイダ（SIM カードの有効性に基づく）、デバイスおよびクラウドプロバイダ（Google や Apple など）、インターネット Wi-Fi プロバイダが含まれます。

OpenRoaming は Hotspot 2.0 を活用して、ゲストユーザーが Wi-Fi および携帯電話ネットワークで自由にローミングできるようにします。Wi-Fi 接続は、業界標準の Wi-Fi Protected Access 2（WPA2）および Wi-Fi Protected Access 3（WPA3）プロトコルと暗号化認証を使用して保護されています。

小売店などのパブリックアクセスを行うロケーションオペレーターは、ボタンをクリックするだけで、ゲスト Wi-Fi の契約率を加速できます。物理的な空き領域の使用状況について収集できるデータを Cisco DNA Spaces で活用することで、消費者の行動パターンをよりよく理解し、特定できるようになります。これにより、ビジネスの成果を実現しながら、各拠点での顧客体験が向上し、定着します。

この章は、次の項で構成されています。

- [OpenRoaming のメリット](#)（2 ページ）
- [OpenRoaming の前提条件](#)（3 ページ）

OpenRoaming のメリット

- オンサイトの顧客のための簡素化された Wi-Fi ゲストアクセス
- Wi-Fi 契約率の向上
- シームレスで安全な Wi-Fi 接続による顧客オンボーディングの改善

- Cisco DNA Spaces アカウントを介した OpenRoaming の簡単なサインアップとネットワーク構成
- 訪問者と顧客に関するインサイトと分析へのアクセス
- Wi-Fi、Cisco DNA Spaces、ロイヤルティ アプリケーションによる、顧客エンゲージメントの向上
- セルラーから Wi-Fi ネットワークへのトラフィックオフロードによる運用コストの削減

OpenRoaming の前提条件

Cisco DNA Spaces で OpenRoaming を使用するには、ネットワークが次の前提条件を満たしている必要があります。

- アクティブな Cisco DNA Spaces アカウントが必要です。
- シスコのワイヤレスネットワークが必要です。コントローラベース（Cisco AireOS または Cisco Catalyst ワイヤレスコントローラ）とクラウドベース（Cisco Meraki）の両方のネットワークがサポートされています。
- ワイヤレスネットワークを Cisco DNA Spaces アカウントに追加する必要があります。
 - コントローラベースのアーキテクチャでは、Cisco DNA Spaces コネクタを使用する必要があります。Cisco DNA Spaces コネクタのダウンロードと設定については、『[Cisco DNA Spaces Connector Configuration Guide](#)』を参照してください。
 - Cisco Meraki ネットワークでは、Cisco DNA Spaces アカウントに Cisco Meraki アカウントを追加する必要があります。

